

ひまわり

花言葉：献身

コロナ禍のがんサロン「ひまわり」	病院事業管理者	大嶋壽海
コロナ禍での3年間で緩和ケアはどう変わったか?～医療スタッフのストレスマネジメント～	外科診療部長・緩和ケア科部長	濱口裕光
緩和ケア研修会に参加して	北病棟3階	田中愛海
安心・安全ながん疼痛治療薬～安全な麻薬の使い方を中心に～	薬剤部	大久保達也
緩和ケアの療養と地域連携について	がん相談支援センター	がん専門相談員 大倉典賢
最期の贈り物になる言葉～終末期にある夫婦との関わりで感じること～	北病棟3階	吉原有希
コロナ禍の終末期がん患者の家族ケアについて	緩和ケア認定看護師	宮野由美
看護師の独り言	緩和ケア認定看護師	松山美保
おすすめの本	リハビリテーション技術	長瀬愛美

コロナ禍の

がんサロン「ひまわり」

病院事業管理者 大嶋 壽海

令和4年の秋口より第7波は収束傾向となるも10月下旬より新型コロナウイルス感染症が増加に転じ、BA5の再燃やBA2などのオミクロン株変異株の混在状態の第8波が国内を襲い、クリスマス、年末年始で新規感染者数は急増した。令和5年1月6日に新規感染者数が24万6,757人に達し、ピークとなる。2月13日には新規感染者数は久し振りに1万人を割る9,437人に減少し収束傾向を示している。新型コロナウイルスも世代交代を繰り返す内に感染力は強くなるも毒性は弱くなっている様だ。

本院はがんサロン「ひまわり」の参加者は、平成30年度に年間73人であったが、新型コロナウイルス感染症が国内で入ってきた所為、令和元年度は2月、3月の会は中止に追い込まれ、年間47人に減少している。以後令和2年、3年度は各々1回の開催

に留まっている。令和4年度は4月、5月は中止としたが、以後は感染対策を十分に取り、開催してきたが、参加者が激減し、3月を残し26人で最近は、新規参加者は2人に過ぎず、がんサロン「ひまわり」は存亡の危機を迎えている。がん検診やがん治療患者数の減少もあるが、集会を避ける傾向が強いのも一因であろう。新型コロナウイルス感染症の収束を待たずにがんサロン「ひまわり」の再構築を考えた活動を現在模索中である。

コロナ禍での3年間で

緩和ケアはどう変わったか？

医療スタッフの

ストレスマネジメント

外科診療部長・緩和ケア科部長

濱口 裕光

2019年12月に中国武漢市から報告された新型コロナウイルス感染症 (Coronavirus disease 2019; COVID-19) は、瞬く間に世界に広がった。日本では

2020年1月に感染が確認されてから、3月に感染者数が急増。4月には緊急事態宣言が発出されるなど急速に流行が拡大し、今なお世界的流行状態にパンデミックが続いている。この原稿を執筆している現在は、第8波の真只中にある。COVID-19の感染拡大に伴い、入院患者や医療者への感染、医療崩壊を防止するため、多くの病院において家族の付き添いや面会が中止・制限されてきた。そして、COVID-19パンデミックにより、緩和ケアの提供体制も大きく変貌せざるを負えない状況となった。入院患者や医療者への感染、医療崩壊を防止するため、多くの病院において家族の付き添いや面会が中止・制限され、ホスピス・緩和ケア病棟では、予後が限られた終末期患者への影響は計り知れず、「人生最後の時に、大切な人と過ごせない」という厳しい状況がもたらされ、在宅緩和ケアを希望される患者さんご家族が増加する状況となっている。患者・家族も初めて経験するコロナ禍への対応と同時に、大切な人との別れという「つらい時間」にも向き